



福島県 小学校長会 会報

- 巻頭言…………… 1
- 教育ニュース
県教育庁義務教育課の取組 … 2
- 特集「たくましく生き とも
によりよい未来を創っていく
子どもの育成」 …… 3～6
- 支会だより…………… 7～10
- ふくしま人この道に生きる … 11
- 表彰・各部だより…………… 12



花を育て、子どもを育てる

相馬市立中村第一小学校 午 来 勝 顕

本校の職員室の窓辺には、小さなシクラメンの鉢が五つ置かれている。窓越しの太陽の光を浴びながら、今は赤や紅、桃色等の花が咲いている。

この鉢は、ずっと前からここに置かれている。花の季節を終えてどこかの教室から持ち込まれたのかもしれないし、転勤していく先生が職員室に飾ったのかもしれない。特にこの鉢の世話を誰がすると決めているわけではなく、気づいた先生が気づいたときに水やりをしているらしい。夏休み中は屋外の日陰に鉢が並べられていた。夏休み明け、「よく枯れもせずに」と驚いたが、日番や花壇の様子を見に来た先生が水やりをしていたのだろう。猛暑を乗り越え、秋を過ごし、また今年も元気な花を咲かせている。

花を育てるのと同じように、子どもたちを育てたいと考える。そこに共通しているのは、対象とするものにいかに愛情をかけるかということであり、少し表現を変えれば、「チーム力」が必要であるということ。誰かが水をやるだろうと待っていたのでは、植物はすぐに枯れてしまう。我も我もと皆で水やりをしたのでは、根腐れを起こしてやはり枯れてしまうだろう。植物が花を咲かせるためには「必要な時に、必要な分だけ手をかけること」が肝心である。そして、学校には多くの子どもたちがいる。すべての子どもたちによりよい成長を遂げさせるためには、常に「必要さ」の塩梅を見極めながら、チームとして機能していくことが大切であると考える。

学校の「チーム力」が問われてから久しい。校長は、学校経営の基盤となるべく、校内に複数のチームを組織し機能させていく必要がある。

る。チームが実効性をもつためには、先生方一人一人が構成員としての自覚を深めるとともに、チームとしての連帯感を高めることも必要となってくる。校長として行うべきことは、チームが向かう目標と方向性を明確に示すことであり、先生方一人一人のよさを把握し個性を尊重しながら、校内のチームをコーディネートしていくことである。学校経営の善し悪しは、校長のマネジメント力に全てがかかっていると自分を戒めている。

38年前、初任校での初めての家庭訪問、A子の祖父から言われた言葉が今でも忘れられない。A子は、明るくユーモアがあり、いつも前向きに努力する子どもだった。「A子のような子どもに育てるにはどうしたらいいのか」、両親と話していた時に、それまで静かに脇で話を聞いていた祖父がふっと言った。「あの子、先生。作物を育てるにはな、土地も大事、もちろん種も大事。水もほしい、栄養も。でもな、一番大事なのは、天気だ。天気が悪けりゃ、作物は育たないんだ。」しばらくして、それは「家庭環境」を意味しているのだと理解した。

学校のチーム力を生かし、その効力を上げるためには校内の天気、つまり、「学校の教育環境」がよくなければならない。子どもたちの志気を高めようとする先生方の強い意欲、互いの意思を尊重し支え合おうとする仲間意識、そして職員室の温かい雰囲気づくり…。

窓辺には、もう1鉢、別の花が並べられている。ある日つぼみをつけて、茎が伸び始めた。咲いたのはガーベラ。これも年に3回ほど花を付け、そのたびに職員室の話題となる。本校には、花に水やりをしながら、その成長を育もうとする先生方がどうやらたくさんいるようである。

県教育庁義務教育課の取組

福島県教育庁義務教育課長 福地 裕之

令和3年度は小学校における新学習指導要領の全面実施から2年目となります。また、東日本大震災から10年が過ぎ、節目の年であるとともに、様々な取組も展開していきます。

1 キラリプロジェクト

キラリ☆と光る学校をつくるプロジェクトです。教科担任制・英語教育・不登校対策・RSTなどに焦点をあててきました。今後は、キラリと光る実践を広げていくとともに、福島の創造的復興教育を核とした未来を創る人材も育成していきたいと考えています。

2 RST（リーディングスキルテスト）

RSTは、基礎的な読解力を図るテストです。その結果を指導に生かし、児童生徒が日々使っている教科書をきちんと読めることが大切です。現在、県内14校のモデル校が実践を重ね、大きな成果を残しています。教科書がきちんと読めることで自学にも効果があることから、さらに推進していきます。

3 GIGAスクール

GIGAスクール構想に基づき、今年度中に一人一台端末の整備が完了する予定です。未来の教室に向けて「学びのSTEAM化」「学びの個別最適化」「新しい学習基盤づくり」を進めています。ICTを学びのツールとして、普通にどこでも使えるような環境を目指しています。鉛筆やノートと同じ文房具としての扱いが求められています。

4 ピュアハートプロジェクト

東日本大震災を経験した本県だからこそ、人としてよりよく生きることを大切にしていきたいと思っています。道徳教育の充実や教育相談体制の整備、そして、地域との連携を大切にしながら心の教育に取り組んでいます。昨年7月には「『こ

まったな』と思ったら“SOS”を出してみよう」をリーフレットとして作成しました。今後は、先生方をサポートするガイドブックを作成します。

5 教員採用試験

今年度、教員採用候補者選考試験において、いくつか変更しました。年齢制限の撤廃、教職経験者特別選考における受験資格の緩和、中学校と高等学校との併願制度の導入、小学校における地域採用枠の新設などです。採用数が増加している中で、いかに教職員を育成していくかが大切です。本県の教師になりたいという熱い思いに応えられるよう取り組んでいきます。

6 新たな職

新たな職は、現在、副校長を10校に主幹教諭を34校に配置しています。学校教育法第37条には、「副校長は、校長を助け、命を受けて校務をつかさどる。主幹教諭は、校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、並びに児童の教育をつかさどる。」とあります。パイプ役となつて、組織運営を活性化することにより、校長が学校のマネジメントに集中する時間が増えます。今後も拡充を図っていきたいと思っています。

7 35人学級

少人数学級の実現をめぐり、公立小学校の1クラスの人数を2025年度までに全学年で35人以下に引き下げる方向性が打ち出されました。全国に先駆けて少人数教育を推し進めてきた福島県にとって、効果的な少人数教育の在り方について、改めて検証していくことになりそうです。コロナ禍にも対応した少人数教育は、今後、ますます注目を浴びてきます。

義務教育課は、ぶれることなく、子どもたちと先生、学校のために力強く支援していきたいと考えています。

環境教育の充実を目指したカリキュラム・マネジメントと、校長の果たすべき役割について

石川町立野木沢小学校 佐藤 康二

1 はじめに

石川地区の9校で取り組んでいる研究課題は「健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方」の視点2「体験を通して実践的な態度を育む教育課程の推進（環境教育）」である。環境教育においては、持続可能な社会の担い手となる子どもたちの育成が求められており、「ふるさとふくしま」を見つめ、生命や自然に対する感受性や身近な環境問題への意識を高め、さらに体験を通して、環境に対する見方・考え方を身に付け、豊かな自然を守る実践的な態度を育てていくことが重要である。そこで、本支会では、子どもたちの心身の健やかな成長を目指し、「ふるさとふくしま」のよさに気づき、持続可能な社会の構築に向けた実践力の向上を図るとともに、体験を通して実践的な態度を育む環境教育を推進するカリキュラム・マネジメントのための校長の果たすべき役割と指導性を究明したい。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 研究の内容

- ① 環境教育に関わる教科横断的な視点での教育課程の編成と実施
- ② 家庭や地域社会、関係機関の教育資源を生かす校長の関わり

(2) アンケート調査から

- ① 環境教育として機能していることは、○児童の活動時間や場所 ○教育課程・学習プログラム等。足りないことは、●教師の準備時間 ●校内のコーディネーター ●学校外の情報
- ② 「ふるさとふくしま」の環境教育に関する内容は、ゴミ問題、エネルギー問題、水質調査、植物の栽培、放射線関係、台風や大雨被害など生活に及ぼす影響等
- ③ コロナ禍での環境教育の課題は、指導内容や活動場所が限定、しかし継続実践が重要

(3) 各校の実践例

- ① 環境教育に関わる教科横断的な視点での教育課程の編成と実施
 - 教科横断的なカリキュラムの例示

計画されていたカリキュラムから、社会科を中心とした教科横断的な学習計画を洗

い出し、先生方に提示。どの時期にどの教科と関連するか明らかにすることで、環境教育を意識した実践となった。

- 学年内の教科横断的な視点を意識させる提案

4学年の浄水場見学をきっかけとして、「水と自分たちの生活」について関連するものを年間カリキュラムから洗い出し、社会科の自然災害、道徳科の環境問題、そして、集会での「水の話」の校長講話等、環境教育の視点で振り返った。

- ② 家庭や地域社会、関係機関の教育資源を生かす校長の関わり

- 環境教育の充実を目指した課題解決学習

3学年のリング栽培体験活動、4学年の自然環境調査、5学年の稲作体験等、年間を通



じて、関係機関や地域の専門家と連携しながら、地域や学校の特性を生かした多様な教育活動を展開した。

- 関係機関と連携した、地域素材等の提示

現地での見学学習が実施できない状況から、見学先の資料を取り寄せ、独自に教材を作成し、校長がゲストティーチャーとして参加して、発展的な授業の充実を図った。
- 校長が児童に直接働きかける機会を生かす

行事や集会活動等において、校長が話をする機会に、環境教育の視点を加えながら話し、活動の意義や児童の活動意欲を高めた。

3 むすびに

今回の研究を通して、校長として発揮すべきリーダーシップを次の4点にまとめた。①自校の環境教育の位置づけの確認、②教育課程・計画と実践活動の工夫・改善、③教職員の意識啓発と研修の推進、④関係機関、家庭等との連携の推進。これらの観点で実践することで、成果としては、コロナ禍だから工夫してやれることがあること、校長自ら積極的にカリキュラム・マネジメントすることで、先生方の意欲を高められること、そして、教科横断的な取組が、各教科をつなぎ、多面的な教育活動を可能にすることが確かめられた。これからも、児童が主体性を持ち、身近な環境に関する学びがより深まっていくような更なる工夫を求めている。

新たな学校としての旅立ち ～統廃合、この1年～

小野町立小野小学校 小荒井 新佐

1 はじめに

本校は、令和2年4月、小野新町小学校、飯豊小学校、浮金小学校、夏井第一小学校の統廃合を受け、新設校としてスタートを切りました。全校児童456名のうち、190名が11台のスクールバスで通学をしています。小野町で一つの小学校になったため、行政や町民のみなさまの期待を一身に背負っての船出でした。教育目標は、小野中、そして、小野高校の教育目標にもある「夢」を生かし、「未来に向かって夢をもち続ける子ども」と設定しました。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 「心をついに 一つになろう！」

これが、今年度の学校経営スローガンです。「このスローガンは、授業中でも、運動会のような学校行事でも、委員会活動でも、PTA活動でもどんなことにも当てはまるスローガンです。4つの学校が一つになった今年だからこそ、心をついにする努力を、学校・学年・学級が一つになる方策を考えていきましょう。」と第1回の職員会議で先生方にお話をしました。子どもたちにも伝えました。このことを学年だよりにふれてくださった先生や教室に掲示してくださった先生がいらっしゃいました。結果的には、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で思うように教育活動を進めることはできませんでしたが、それが教職員の心をつにした時もありました。

新型コロナウイルス感染症に対応した運動会の種目を全職員で検討していた時のことでした。ソーシャルディスタンスを確保できそうな綱引きを全校統一の団体種目にしようと考え始めた時、

- ・ 持つ場所を明示した印を綱につければソーシャルディスタンスが確保できる。
- ・ 廃校になった学校から綱を持ってきて3本用意すれば、時間短縮になり、クラスごとの紅白対抗綱引きができる。

このように建設的な意見がたくさん先生方から出されました。コロナ禍を教職員みんなで乗り切り、子どもたちが楽しめる運動会にしようという先生方の思いが一つになりました。

(2) まずは学習集団作りから・・・

現職教育の今年度の研究テーマを「児童が互いに一人ひとりを大切にする学習集団の育成」と設定しました。研究グループを「知」「徳」「体」の3つの領域に分けました。現職教育を通して教育目標の3つの重点事項の課題解決を図っていくシステムにし、教育目標の具現化に先生方の研究が直結するようにしたのです。

ある研究授業の中で、授業者の先生が子どもの名前を何回、声に出すかをカウントすることにしました。「〇〇〇さん」という指名だけではなく、「〇〇〇さんの考えを言い換えられますか」とか「〇〇〇さん、すごいねえ」という授業者が発した言葉の中に、子どもの名前が何回登場するかをカウントしてみたのです。最高に多い先生は45分で80回を超えていました。この膨大な数だけ、この先生は子どもの思考や表現に目を向けていたのです。そして、その数の分だけ、子どもたちも友だちの思考や表現に目を向けました。一時間一時間の教師の基本的な姿勢がいかに大切かを全職員で考えることができた授業研究でした。

3 むすびに

今、次年度に向けて小野小学校の教育理念を考えているところです。次のような言葉で、小野小学校の教育を表現しようかと考えています。

「小野小学校は、子どもたちがランドセルに期待と夢をつめて登校し、楽しさと喜びを胸に抱いて下校する幸福を追求します。」



教職員の参画意識を高揚する 活力ある組織・運営の推進

中島村立吉子川小学校 吉田 衛

1 はじめに

東西しらかわ支会は、東白川と西白河それぞれの支会が統合して3年となる。子どもたちを取り巻く状況が激しく変化する中、校長一人一人の強い団結力で、これまでも様々な課題を解決してきた。研究についても、支会において課題を共有し協力して進めてきている。そのような中、今年度本支会矢吹班で取り組んだ研究の一端について述べさせていただくこととする。

2 未来を担う子どもの育成

質の高い教育の実現と教職員の資質向上のためには、一人一人の教職員が高い参画意識をもち、学校組織が運営されなければならない。そこで、本支会矢吹班では、「教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営のあり方」を視点に、以下の二つの実践の柱を設定し取り組んできた。

【実践の柱1】

学校課題解決のための組織づくりと運営における校長の関わり

【実践の柱2】

教職員の資質能力を生かし専門性を育む校長の関わり

(1) 各校の実践

- ① 新しい教育目標の設定を通しての個々の教職員の参画意識の高揚を図る取組（A校）
 - ・ 学校の実態をSWOT分析し、教育目標と学校経営・運営ビジョンに生かした実践。
- ② 肥満傾向児童の改善に向けて、教職員の参画意識を高めるための取組（B校）
 - ・ 肥満に関する児童の実態把握を行い、教職員・関係機関と一体となった実践。
- ③ 学校運営における指導場面での意思統一を工夫・配慮した取組（C校）
 - ・ 新型コロナウイルス感染防止の対応のあり方についての実践。
- ④ 教職員の参画意識を高めるため、協働を促し組織の活性化を目指した取組（D校）
 - ・ 臨時休業時における児童支援の実践。
- ⑤ 教員の資質・能力を伸長し、達成感、成就感を抱けるようにするための取組（E校）

- ・ 部分的な教科担任制、日常的な互見授業の実践。

- ⑥ 生徒指導を軸として教職員のOJTを機能させ、関係機関と連携するための取組（F校）
 - ・ 学校教育目標の目指す子ども像に近づけるための各主任が中心となった実践。

(2) 実践より得られた成果

【実践の柱1から】

- ① 学校課題を明確にし、学校課題に対してチームとして対応することや、教職員一人一人が子どもたちに指導すべきことを明確にして共有することが組織作りの土台となった。
- ② 情報共有の在り方や思考ツールの活用など校長の具体的な方策提示が有効な手立てとなり教職員の参画意識につながった。

【実践の柱2から】

- ① 教職員の専門性をより伸ばすには、校長が教職員一人一人のよさを把握し組織に生かすことが重要である。それが、成就感を味わわせ参画意識を高めることとなり、良いスパイラルをつくり出すことにつながる。
- ② 目指す子ども像に近づけるために各主任を中心とした取組を活性化した。例えば、縦割り班清掃の改善に向けた取組では、清掃主任を中心として全職員で取り組んできた結果、6年生をリーダーとした望ましい清掃活動に変容してきており、清掃主任のリーダーとしての自覚の向上につながった。



望ましい清掃活動への変容（F校の取組）

3 むすびに

学校経営・運営ビジョンを教職員一人一人が理解し実践していくことが、教職員の参画意識を高めるためには重要である。そのために、校長がメンター的な関わりで、教職員一人一人に達成感をもたせていくことも参画意識高揚に大きくつながると考えられる。学校課題を解決して教職員の参画意識を高めるには、自校の実態を踏まえ、長期的な展望・計画・取組が必要であり、何よりも教職員に誇りと自信をもたせることが重要である。

豊かな心とたくましく生きる 力を身に付けた子どもの育成 ～野口英世博士の精神を受け継いで～

猪苗代町立長瀬小学校 佐々木 豊

1 はじめに

本校は「児童第一主義を貫く」「授業を大切に
する」「組織的に対応する」「少人数のよさを最大
限に生かす」を基本姿勢としている。本校の取組
を、猪苗代町の共通実践、北会津支会の取組、本
校独自の取組の三つの視点から紹介したい。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 猪苗代町の共通実践

① 立腰教育

町内の全小中学校では「やる
気・持続力・集中力・体づくり」
を目的に立腰教育に取り組んでいる。授業の
始めと終わりの挨拶で腰骨をきちんと立てる
ことは、学習の構えづくりとなり、学習の基
盤づくりに貢献している。



② 「私たちの誓い6ヶ条」運動

猪苗代町では、郷土の誇りである野口英世
博士の精神や遺志を受け継ぎ、世のため人の
ために役立つ仕事を成し遂げる人に育ってほ
しいと願い、「私たちの誓い6ヶ条」を制定
している。本校では、博士の遺訓「目的・正直・
忍耐」を浸透させるため、各学級の朝の会で「私
たちの誓い6ヶ条」の唱和を行っている。

「猪苗代の子ども、わたしたちの誓い」

- 一 夢に向かって努力します（目的）
- 二 うそや、ごまかしはしません（正直）
- 三 くじけず、最後までがんばります（忍耐）
- 四 友だちや家族をいたわります
- 五 人の役に立つことをします
- 六 猪苗代に誇りを持ち、猪苗代を愛します

(2) 北会津支会研究第1班の取組

本支会の9校は「確かな展望をもち、優れた
実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成」
に取り組んでいる。ミドルリーダーに求める資
質・能力を明確にし、各校のミドルリーダーの
実態と課題は何か、どのような取組がミドル
リーダー育成に効果があるのか、各校で実践に
取り組んでいる。

本校では6学級中3学級が若手教員であるた
めその育成が課題である。中堅教員へのミドル

リーダーとしての自覚を促す働きかけにより、
若手教員への指導・支援に積極的に関わること
になってきた。若手教員の成長は、子どもたち
の学びに還元されている。

ミドルリーダーに求める資質・能力(北会津支会)

- 使命感・責任感
- 学校課題解決力・マネジメント力
- 実践的指導力(教科・生徒指導, 若手育成)
- 課題解決への意欲・向上心
- 調整力・連携力

(3) 本校独自の取組

① 少人数を生かした授業の充実

本校は全校生68名、各学級10名程度の小規
模校である。「少人数のよさを最大限に生か
す」ことを心がけ、一人一人を大切にしたい
きめ細やかな教育を行っている。徹底した個別
指導により、誰一人取り残さないのが本校の
自慢である。

② 道徳教育の推進（校内研究の取組）

昨年度「福島県道
徳教育推進協議会道
徳教育推進校」の指
定を受けたことを契
機に、道徳教育の推
進に取り組んでいる。



道徳の掲示

「自他のよさに気付き、
自己の考えを深め、よりよく行動しようとす
る児童の育成」をテーマに、考える道徳、議
論する道徳を目指して実践を重ねている。子
どもたちの心を育てることは、安定的な学級
集団づくりにつながり、他のいろいろな教育
活動にも好影響を与えている。

③ 体験的な学びの充実（直接体験の重視）

コロナ禍の中でも「ひと・もの・こと」へ
の直接体験を重視し、できるだけ「本物」に
触れる教育活動を進めている。体験は豊かな
人生の基盤となると考えるからである。見学
の実施にあたっては町バスが無料で利用できる
ことが大きい。見学学習や外部講師を教育
課程にしっかりと位置づけるとともに、教育的
効果があったかを反省し、よりよい体験活
動を目指して改善を重ねている。

3 むすびに

校歌にある「正しき道をふみ共にう倦まず進まん」
には野口英世博士の精神が込められている。困難
に負けずに新しい時代をたくましく生きる子ども
たちを、これからも育てていきたい。

福 今年度の活動を振り返って

福島市立荒井小学校 伊藤 勝彦

1 はじめに

福島支会は、福島市と川俣町の国公立54校の校長により組織され、年6回の定例会を中心に、6方部ごとの研修会も併せて実施してきました。今年度は15名の新会員を迎え、コロナ禍の中、会員の力を結集し諸活動を推進してきました。

2 本年度の取組**(1) 各種研修の推進****① 定例会及びニーズ研修の実施**

年6回の定例会（全会員参加）は、4月の第1回は参加人数を制限、第2回及び第3回は内容を精選し併せて1回、第4回は1日を半日にするなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で実施しました。また、方部長を中心に情報交換を密に行い、コロナへの対応も共通理解を図り進めてきました。

ニーズ研修については、第5回定例会で新型コロナウイルスの影響によるいじめ・不登校等生徒指導上の課題と取組について、県小学校長会生徒指導部調査を基に意見交換し、情報の共有化を図ることができました。

② 学校経営研修会の開催

今年度本地区に着任した新任校長・教頭を対象とした研修会やミドルリーダーや管理職考査受考者を対象とした研修会は、資料作成、配付という形を取るなど、コロナ対策を講じながら、校長の実務的な研修と人材の育成を推進してきました。

(2) 課題研究の推進

第4回定例会は「支会研究協議会」とし、各方部ごとの研究課題に沿って、方部研修会を通して研究実践してきた内容について発表・協議を行いました。県研究部長からのご指導をいただき、充実した研修となりました。

(3) 教育復興への取組

福島第一原発と今年度開館した伝承館を視察しました。震災後10年目の現状と課題について把握、再認識する機会となりました。

3 むすびに

今後も各会員が連携・協力し、校長のリーダーシップのもと、力強く魅力ある福島の教育を創造していきたいと考えています。

伊 「伊達はひとつ」をつなぐ

伊達市立栗野小学校 木村 圭吾

1 はじめに

伊達支会は（伊達市・桑折町・国見町）は19名の会員で構成されています。令和元年度末の人事異動により新しく6名が加わり新体制でスタートしました。今年度、小手小が月館学園小に統合し、今年度末には大石小が掛田小に統合されます。学校数が減少するため、一層の校長会の組織の見直しと連携の強化を図っています。

2 本年度の取組**(1) 研究の推進**

各小学校長が研究内容に基づき、自校の教育課題の解決に向け、研究実践に取り組みました。次年度の東北大会（福島大会）に向けて組織的な研究の推進を進めてきました。

(2) 校長の資質向上

① 新学習指導要領全面实施に向けて校長会で話題に取り上げ意見交換をしました。各学校の取組が参考になりました。

② 11月には、「教育の復興及び研修充実に向けた事業」として、飯舘村立いいたて希望の里学園、伊達市立月館学園の研修視察を行いました。地域の期待を担い設立された義務教育学校・小中一貫校として様々な教育課題に取り組む学校現場の現状を学ぶことができました。

③ 新型コロナウイルス感染症対策では、地教委からの指示・方針や各校の取組等について情報を交換し感染拡大防止策を徹底しました。

(3) 人材の育成

教頭やミドルリーダーを対象とした研修講座を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、書面による研修として、実際に集まる機会を減らしました。

(4) 多忙化解消

地区や地域の教育活動の見直しを図るため、担当責任者を決めました。改廃を含め、今後検討することにしました。

3 むすびに

学校数が減少し次年度も1校が閉校になります。組織体制を見直し、「伊達はひとつ」の志を引き継ぎ、校長会一丸となって「地区の学校教育の充実」に努めて参ります。

安 「安達の校長」を繋ぐ…

二本松市立杉田小学校 岩渕 孝

1 はじめに

本支会は二本松市、本宮市、大玉村の25名により組織されている。3市村の個性を生かした教育行政のもと「安達は一つ」を合言葉に学校経営力を高めるための研究や研修等を進めている。

2 本年度の取組**(1) 方部研究の推進と支会大会の開催**

県研究部幹事を講師招聘する計画であったが期日変更のため支会会員のみで開催した。

**(2) G I G Aスクール構想に向けた研修会の実施**
プログラミングやデジタルドリルの学習履歴一括管理等について体験的研修を実施した。**(3) 研修視察の実施**

本年度は感染防止のため一斉実施を見送り、個人で東日本大震災伝承館等の視察をし、結果を報告・共有する方法で実施した。

3 むすびに

各種会議等を削減せざるを得ない本年度であったが、3市村校長会と連携しながら最小限の支会活動は実施できた。次年度以降も「安達の校長」を繋ぐ有意義な支会運営を工夫していきたい。

郡 今年度の活動をふり返って

郡山市立大成小学校 柳沼 啓之

1 はじめに

本支会は、義務教育学校2校を含む51校、会員は、副校長4名を加え55名で組織されている。様々な教育改革が進む中、会員が直面する課題についての協議の場や時間を確保し、課題を共有し、その解決を目指して活動している。

2 本年度の取組**(1) 研究の推進**

本年度は、令和2・3年度の2年間の研究の1年目の年である。各校の実態に応じて「校長の在り方」に視点を当て、組織的・継続的な研究を進めており、郡山支会研究発表会を実施した。

(2) 方部研修会

市内5方部に分かれての小・中学校合同の研修会を開催し、各学校の課題とその対応策や小・中学校の連携のあり方等について協議した。

(3) 特別研修

校長としての資質・力量の向上をめざして、外部講師を招聘する研修を年1回開催している。今年度は、新型コロナウイルスの感染防止について専門的な知識を有する学校医にご講演いただいた。

(4) 情報の発信

本支会のホームページによる校長会の諸活動・諸事業等の情報発信、さらには本支会の広報誌「きずな」の刊行及びホームページ掲載など、積極的な情報の発信に努めている。

3 むすびに

東日本大震災から10年目を迎える、未だにその影響は続いている。今年度も、給食食材の放射線測定、回数は少なくなっているがプール水や敷地内の放射線測定、希望者への個人積算線量計配付などは継続している。また、今年度は、コロナ禍による学校の休校、新型コロナウイルス感染予防対策のための教育活動の制限など、誰もが経験しなかった事態に対応しなければならず、校長として苦慮することも少なくなかった。校長会としては、ICT（ロイロノート）を活用し、タイムリーに各学校の取組の情報交換を行ない、校長同士の連携を図ってきた。引き続き、従来の教育課題に加えて、コロナ禍における学校教育の推進のために、新しい発想のもと、これからの時代に即して校長としてどう進むべきか、本会活動において議論を深めていきたい。

岩 岩 瀬 は「一枚岩」

須賀川市立柏城小学校 熊田順一郎

1 はじめに

岩瀬支会は、1市1町1村（須賀川市、鏡石町、天栄村）22名の会員で構成されている。コロナ禍の今年度、「岩瀬は一枚岩」を合い言葉に、感染症対策と子どもの学びの継続の両立を目指し、今できる最良の教育を求め、努力してきた。

2 本年度の取組

(1) 学校経営充実のための研修会

4月の総会、4回の地区校長会、更に各校の学校経営・運営に役立てるために、2回の学校経営研究会を実施した。

① 先輩校長の体験発表

今年度退職される校長先生方の教員人生の成功談・失敗談、教育哲学等のお話により、よりよい学校経営を示唆していただいた。

② 教育講演会

今年度は、公立岩瀬病院院長様と須賀川市教育委員会教育長様より御講話をいただいた。喫緊の課題の解消や学校経営のあり方等について、幅広い分野から学ぶことができた。

(2) 組織的対応による人材育成

① 新任校長研修会

年3回、協議会会長・副会長による研修会を行った。校長心得や岩瀬地区の特質等、すぐに役立つ研修内容であった。

② 岩瀬地区教職教養講座

昇任考查を目指す先生方の人材育成と、教職員の資質向上のために、中学校長会と連携し、8月に3日間実施した。

(3) その他

① web会議の実施

9月に地区陸上競技交流大会、各校運動会等について情報交換を行った。

② 視察研修

8月に浪江町の復興理解のための視察研修を実施した。（なみえ創成小・中学校、請戸小学校校舎等を見学）

3 むすびに

コロナ禍の影響により先が見えにくい現在だからこそ、個々の校長がつながる校長会の役割が大きいことに改めて気づかされた今年度であった。今後も結びつきをさらに強化していきたい。

相 馬 今年度の活動を振り返って

相馬市立桜丘小学校 渡邊 義人

1 はじめに

今年度、飯館村の小学校3校、中学校1校が統合され、相馬地方では初めての義務教育学校「いいたて希望の里学園」が開校するなど、相馬地方の各小学校は、東日本大震災及び原子力発電所事故を乗り越え、教育の復興とさらなる発展へ向け着実に歩みを進めています。そこで、本支会の今年度の取組は、県の研究課題に基づく研修に加え、新設された義務教育学校「いいたて希望の里学園」の視察研修を実施しました。

2 本年度の取組

(1) 視察研修の目的

令和2年4月から義務教育学校として再スタートした「いいたて希望の里学園」の視察を通して、義務教育学校の可能性を理解するとともに、相馬地方の小学校の未来像を思い描くことを目的としました。

(2) 視察研修の内容

始めに、飯館村教育委員会教育長 遠藤哲様から義務教育学校設立の熱い思いを込めたご挨拶をいただいたあと、同指導主事 佐藤育男様から設立の経緯や村の目指す義務教育学校像などについてご講話をいただきました。さらに「いいたて希望の里学園」の吉川武彦校長から、地域に根ざした特色ある教育活動や義務教育学校のメリットを生かした教育活動について説明を受け、最後に校舎を視察しました。

(3) 視察研修の成果

今後の目標とする学校像を思い描くよいきっかけとなり、自校や相馬地方の小学校の将来を見据えながら、これからの学校運営の在り方などを考えていきたいという強い思いを、各校長がもつことができた有意義な研修となりました。

3 むすびに

震災後10年が経過し、教育の復興やさらなる発展へ着実に進んでいますが、震災の影響に起因した課題がまだまだあります。さらに、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらの教育活動の実施など、新たな課題も出てきており、これまで以上に、校長のリーダーシップや危機管理能力が求められている状況です。

相馬地方の小学校長は、それぞれの学校での取組の成果を共有し、互いに意見を交流し合いながらこれまで以上に連携を深め、学校が直面する課題を解決していきたいと考えています。

双
葉

今年度の活動を振り返って

大熊町立熊町小学校 阿部 裕美

1 はじめに

今年度は、会議や研修や行事や各種大会等が延期や中止となり、試練の多い年でした。しかし私たち校長会は、雨にも風にも新型コロナウイルスにも負けず、知恵を出し合い、工夫して取り組んできました。

2 本年度の取組

(1) 研修会等

- ① 総会【4/3(金)、
郡山市民交流プラザ】

活動計画の確認、役員選出及び組織編成

- ② 第1回研修会【5/13(水)、オンライン】

ア 行財政部、生徒指導部、広報部の各報告
イ 研究部からの研究の推進についての説明
及び自校の現状と課題について3グループに分かれて研究協議

- ③ 第2回研修会【7/10(金)、広野小】

ア 行財政部、生徒指導部、広報部の各報告
イ 支会研究大会『知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方』
内容：3グループごとの研究協議、指導助言

- ④ 第3回研修会【12/4(金)、なみえ創成小】

ア 行財政部、研究部、生徒指導部、広報部の各報告

イ ふるさと創造学サミットについての説明

(2) 交流【①と③は、オンラインにより実施】

- ① 県小学校長会事務局との懇談会
② 全連小校長会、東北連小校長会との懇談会
③ 南会津支会との懇談会

※ 双葉郡内各小学校の現状と課題を情報提供

(3) ふるさと創造学サミット【12/5(土)】

双葉郡8町村が取り組む地域を題材にした探究的な学習であり、今年度で7回目を迎えます。子どもたちの主体性・協働性・創造性を伸ばし自ら未来を切り拓く力を育むことをねらいとし、各校が工夫して取り組んでいる双葉郡内の一大イベントです。



3 むすびに

コロナ禍の中での活動でした。オンラインによる会議を試みたり、研修の内容を吟味したりするなど感染防止対策を徹底して、「チーム双葉」の校長会として、ほぼ年間計画どおりの価値のある有意義な活動を行うことができました。

い
わ
き

今年度の活動を振り返って

いわき市立郷ヶ丘小学校 高野 淳一

1 はじめに

本支会は、四倉地区の小学校1校の統廃合を受けて、64校62名の会員で組織されています。今年度は、『ともに学び、考え、行動する校長会 いわきの未来を担う心豊かでたくましい子どもたちの育成』を活動目標に掲げ、一丸となって活動に取り組んできました。

2 本年度の取組

(1) 新型コロナウイルス感染防止への対応

昨年度末からの、感染防止のための臨時休業に伴い、4月9日に市小学校長会臨時役員会を開き対応について検討を行いました。ここでは、今後の感染の広がり等、予測が難しいことから今年度の市小学校長会主催行事の一切を中止することとしました。その後、校長会としての会議の在り方や学校再開へ向けての対応、各学校の修学旅行実施へ向けての話し合い等を行いました。さらには、8月より来年度の主催行事の在り方について話し合いを重ね、およその方向性を11月に決定しました。収束の見えない状況の中での、市全体の取組とともに、感染に関係した各学校への助言やサポートも大きな取組のひとつとなりました。

(2) リスクマネジメント研修と復興支援を活用した東日本大震災・原子力災害伝承館の見学研修

11月には、リモート形式で鳴門教育大大学院の阪根健二教授より、校長が直面する問題への対応について市内校長全員が参加し講義を受けました。また復興支援を活用し、市小学校長の代表が新たに双葉町に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館を見学しました。いずれの研修も、今後の学校経営の重要課題として生かしていきたいと思っています。

3 むすびに

今年度は、そのスタートから先が見通せない中で、何より児童の健康と安全を最優先に考え、慎重に検討を重ね、各方部長のリーダーシップのもと校長会の活動を前に進めてきました。今後も、校長一人一人が明るい希望をもって学校経営できるよう、地区校長会として組織を生かして取り組んで参りたいと思います。

科学技術開発から文化遺産保護活用へ

涼ヶ岡八幡神社禰宜 遠藤 政弘 さん

化学会社の研究所で、機能性肥料と植物栽培、育種、LED（発光ダイオード）植物工場の技術開発と事業開発に携わり、縁あって（財）環境科学技術研究所（環境研）にて閉鎖型生態系実験施設（ミニ地球）の開発と居住実験に関わることができた。定年後故郷に戻り、実家が代々宮司をしている涼ヶ岡八幡神社に禰宜として奉仕する傍ら、これまでの経験を生かして自然環境の保全と文化遺産の保護活用を通じて地域の活性化に少しでも役立ちたいと活動している。



ーLED植物工場の開発ー

1982年世界で初めて赤色LED植物栽培の特許を三菱モンサント化成が出願したが、当時のLED能力不足により以後の開発は行われなかった。1991年にNASA研究所を訪問し野菜栽培でのLED使用実験を見て、LEDが単色の光を発することから、将来植物の要求する波長光のみを効率的に照射できる省エネルギー光源になり得ると考え、帰国後渡辺博之研究員らと共に本格研究を開始、数種の特許を出願後1995年に園芸学会と植物工場学会で発表、植物工場学会では学会賞を受賞した。2000年に遠藤が環境研に移っても研究は継続されたが、当時のLED光源生産コストが障害となり数年後に開発を断念した。渡辺研究員は玉川大学へ移り引き続きLED植物工場の研究を継続することが出来、そこで建設した「玉川大学サイテックファーム（完全人工光型植物工場）」は同大学のシンボルとなった。彼が教授となりLED植物工場の日本での第一人者となったことはうれしい限りである。

ーミニ地球での居住実験ー

文科省航空宇宙技術研究所では、宇宙で生活するための各種の要素技術開発を行っていた。これらの要素技術を組み合わせて、完全閉鎖型での居住実験を可能にしたのが環境研のミニ地球である。この施設を使用して居住するには幾多の困難があり、これを克服しながら居住期間を長期化する検討を開始しており、2000年にこの実験管理者に採用された。最終目的はミニ地球を活用して物質循環を調査し、放射性物質の挙動をシミュレートすることであるが、その前段階として居住可能な閉鎖生態系を構築することが当面の目的であった。そのためにはミニ地球を構成する「閉鎖系植物実験施設」、「閉鎖系動物飼育・居住実験施設」、「閉鎖系陸・水圏実験施設」そして「物質循環システム」の各機能を制御した居住実験の継続が課題であった。NASAをはじめとする海外の宇宙機関と共に設立した「国際生命維持ワーキンググループ」のメンバーとなり、国際会議を事務局長として開催した事、国連大学や日本科学未来館での講演、居住期間を2週間まで延ばした事等、かけがえのない思い出となった。地球は大きな閉鎖系であり、ミニ地球が地球環境問題にも貢献するものと期待している。



閉鎖型生態系実験施設（ミニ地球）

ー涼ヶ岡八幡神社の重要文化財指定ー

元禄8年（1695）に建造された涼ヶ岡八幡神社の建造物について、2009年から3年間にわたる専門家による調査を依頼し、全体取り進めと神社の歴史の調査を担当した。2011年に調査報告書を文化庁に提出、2012年に元禄8年に建造され現存する本社をはじめとする7棟全てが国指定重要文化財となった。以後、見学者への案内、講演など、地域の文化遺産の保護活用に向けての各種活動を行っている。

プロフィール

1947年相馬市に生まれる。1971年東北大学大学院修了、同年三菱化成工業（現三菱化学）入社。総合研究所23年、本社6年勤務、2000年（財）環境科学技術研究所入社。2007年定年退職、同年「生態工学会学術賞」受賞。2008年故郷の相馬に転居。同年「野草図鑑 仏沼とその周辺の草花」出版。相馬市立八幡小学校非常勤講師、技術士、生態工学会理事、福島県自然環境保全審議会委員、福島県野生動物保護アドバイザー、相馬市文化財保護審議会委員、涼ヶ岡八幡神社禰宜、日本野鳥の会南相馬代表、現在に至る。

秋の叙勲

～おめでとうございます～

令和2年度の「秋の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。
なお、規定により祝電をお送りいたしました。

☆瑞宝双光章（3名）

太田 雅信 様 元白河市立白河第一小学校長
富岡ケイ子 様 元玉川村立玉川第一小学校長
(元玉川村教育委員会教育長)

奥貫 洋 様 元棚倉町立棚倉小学校長
(元鮫川村教育委員会教育長)

祝 表 彰

—表彰おめでとうございます—

◆文部科学大臣教育者表彰

菊池 篤志（白河一）

◆福島県教育委員会表彰

○学校教育功労者（4名）

有賀 仁一（船 引） 菊池 篤志（白河一）
小玉 昭男（白河三） 唐司 和彦（鶴 城）
午来 勝顕（中村一） 水野 達雄（平 一）

○へき地教育功労者（1名）

先崎 力男（船引南）

◆永年勤続表彰（31名）

渡邊かほる（庭 塚） 丹伊田伸哉（川俣飯坂）
小林 雄（玉 井） 森藤 雅之（和 田）
松本 修（永 盛） 吉井 史之（片 平）

石井 研也（高 瀬） 近藤 静雄（金 透）
坂本 義仁（白 岩） 新田 展弘（常 葉）
小松 信哉（美 山） 佐々木初江（御木沢）
宗像 克典（関 辺） 板橋 敬史（大 屋）
坪井 浩一（社 川） 高久 賢一（千 里）
佐藤 潤（駒 形） 渡部 寿之（高 郷）
河野 公寿（横 田） 白井 秀行（田島二）
伊藤 知雄（只 見） 米畑 健一（朝 日）
島田 祥司（八 幡） 佐藤 伸洋（大 甕）
伊藤 恒明（葛 尾） 青田 祥一（川 内）
志賀 秀幹（中央台南） 窪木富士美（豊 間）
鈴木 賢一（小 玉） 梅原 広（長 倉）
大平 孝憲（勿来二）

— 令和3年度行事予定表(案) —

月	本 会 大会・理事会等	総務・経理	行 財 政	各 部 会 研 究	生徒指導	広 報
4	小中合同事務局会① 常任幹事会①（含東北） 小中合同開会式 小学校長会理事会① 小学校長会合同幹事会①	12月 事務局 21水 福島テルサ 30金	合同幹事会① 30金	合同幹事会① 28水 事務局	幹事会① 22木 事務局	幹事会① 26月 事務局
5	小中合同事務局会② 常任幹事会②（含東北）	25火 事務局	常任幹事会② 25火 事務局	合同部長会① 7金 教育会館	部長会① 10月 教育会館	合同幹事会① 11火 事務局 部長会① 20木 教育会館
6	小中合同理事会① 小学校長会理事会② 福島テルサ・サンパレス	11金	幹事会① 合同幹事会② 17木 事務局 22火 事務局	幹事会② 2水 事務局 福島大会発表者・司会者・ 担当幹事合同打合せ 18金 未定	幹事会① 20木 事務局	幹事会② 3木 事務局 幹事会③ ※要覧発行 ※会報253号発行
7	東北連小研究協議会福島大会 臨時合同事務局会（要望打合せ）	1木～2金	合同代表部長会① 6火 教育会館	幹事会③ 7水 事務局	幹事会② 14水 事務局	
8	小中合同事務局会③ 常任幹事会③ 各種団体との懇談会 小中合同理事会② 小学校長理事会③（支会長会） 県教育庁との懇談会	3火 3火 18水 杉妻会館	常任幹事会③ 3火 事務局			
9	要望活動事前打合せ 要望活動	上旬 事務局 上旬 県庁			合同幹事会② 9水 事務局	
10	全連小研究協議会石川大会 中間監査	14木～15金 5火 事務局	幹事会① 中間監査 4月 事務局 7木 事務局	幹事会④ 12火 事務局		
11	小中合同事務局会④ 常任幹事会④（含東北）	15月	常任幹事会④ 15月	幹事会⑤ 部長会② 10水 事務局 24水 教育会館	幹事会③ 合同部長会① 11木 事務局 18木 教育会館	
12	小中合同理事会③ 小学校長会理事会④	2木 あづま荘				
1	各種団体との懇談会	7金 事務局	幹事会② 合同幹事会③ 14金 事務局 24月 事務局	幹事会⑥ 部長会③ 7金 事務局 19水 教育会館	幹事会④ 代表部長会① 21金 事務局 27木 事務局	幹事会④ 13木 事務局
2	小中合同事務局会⑤ 常任幹事会⑤ 小中合同理事会④ 小学校長会理事会⑤ 小学校長会常任理事会①	7月 事務局 24木～25金 あづま荘	常任幹事会⑤ 7月	合同部長会② 合同幹事会④ 9水 教育会館 17木 事務局	幹事会⑤ 幹事会⑥	2水 事務局 15火 事務局
3	小学校長会合同幹事会② 会計監査② 退職校長感謝会	3木 事務局 9水 事務局 ～各文会計画～	幹事会② 合同幹事会② 会計監査② 3木 事務局 9水 事務局	幹事会⑦ 1火 事務局		※会報254号発行 ※あゆみ発行

編集後記

会報252号をお届けします。
ご多用の中、玉稿を賜わりました関係各位の皆様方に、心より感謝申し上げます。

- 発行 福島県小学校長会
〒960-8107 福島市浜田町4番16号 富士ビル2F
電話024(534)5411
会長 佐藤秀美（福島市立福島第三小学校）
- 編集 佐藤亮治・松野光伸・坂本眞理・吉田牧子・遠藤和宏
- 印刷 有限会社吾妻印刷

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、
ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ◆大ホール・貸し会議室
●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 （教育関係者は半額）

福島市上浜町 10-38 office@kyouikuikaikan.jp
TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208